



海外

稲門会の躍動

Overseas TOMONKAI

登録稲門会 検索

現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

会長メッセージ

サイゴン稲門会は、ベトナム第一の経済都市であるホーチミン市で、日本からベトナムへの投資が本格化し始めた1990年代後半から活動を開始しました。既に30年近い歴史を有する当地でも有数の大学同窓会です。本会の前幹事長はホーチミン日本商工会議所会頭を務められました。私も本会の幹事長職を引き継ぎ、会長職を仰せつかった後、同商工会議所会頭を務めさせていただきました。
本会は、ベトナムのビジネスの最前線で活躍しておられる多くの会員の皆さまにとっては、

仕事から離れて気の置けない同窓生と交流する貴重な場でもあります。近年は、若い方や女性の入会も増え、新しい世代の方が気軽に集える会となるよう、幹事の皆さまには活動に工夫を凝らしていただいています。インターネットが発達した現代においても、良き仲間と直接に出会うことができるサイゴン稲門会は、今後も南国の地ホーチミンで『早稲田大学校歌』を声高らかに肩を組んで歌い、集う場であり続けます。
岡田英之(1986年法学)

会員からのメッセージ

サイゴン稲門会の最大の魅力は、日本では出会えない多様な人々との交流にあります。会には多種多様な企業の駐在員、現地で起業する人々、ホーチミン市で留学中の学生、そしてベトナム人のプロフェッショナルが集います。早稲田大学という共通のつながりが、卒業後も刺激を与え合い、互いの成長を促す強力な基盤となっています。サイゴン稲門会は、メンバーにとって国際的な視野を広げ、キャリア発展を加速させる貴重な場所です。
高林 凌(2016年商学)

私の初めての海外駐在先がホーチミンでした。当初は何も分からない状態でしたが、サイゴン稲門会のおかげで、ベトナムに長く住んでいる大先輩からさまざまなアドバイスを受けたり、年齢が近い同級生と知り合ったりすることができました。彼らとはプライベートでも家族ぐるみで親しくしています。サイゴン稲門会のできた交友関係は日本に帰国後も続いている方が多いと聞いており、校友で良かったと、ここホーチミンで実感しています。
村田義剛(2014年政経)

当会は1990年代後半に当初十数人で発足したと記憶しています。ベトナムへ進出する企業も少数で情報が少なく、手探りで仕事を進める中、稲門会は大切な情報交換の場でした。当時、総長をはじめ早稲田出身の首相が訪越される際に、懇親会の時間を取っていただいたことは貴重な経験でした。進出企業が増えるに従い、稲門会もその役割を変化させています。今では若者中心の運営となり、会が盛り上がっているのも、発足当時から携わってきた者にとっては、とても喜ばしく思います。
山本真史(1992年文学中退)

2015年にベトナムへ戻って以降、サイゴン稲門会の幹事として活動してきました。現在は企画部長として、同会のイベント運営全般を統括しています。業務は時に困難も伴いますが、懇親会に参加する校友の楽しむ様子を見ると、その苦勞も報われます。日本で生まれ育ったベトナム人として、このような形で日越の架け橋となることが、素晴らしい青春時代を過ごさせてくれた早稲田大学への私なりの恩返しです。
カオ ミン ケン
CAO Minh Kien (2008年法学)

サイゴン稲門会について

サイゴン稲門会は四半期に一度の定期懇親会、ゴルフコンペ、若手主体のミニモン会など、さまざまな企画を行っており、当地における早稲田大学卒業生(校友)の親交を深めるべく積極的に活動しています。校友は、ホーチミン市の日本人コミュニティにおいて存在感を示しています。例えば、先日行われた早稲田・慶應・上智の三校合同懇親会では、60人の参加者のうち半数以上を校友が占め、ホーチミンにおける早稲田の勢いを象徴する会となりました。また、直近の早慶ゴルフコンペでは早稲田が3部門全勝しました。
近年、多くの日本企業がホーチミンに進出し、現地に根付いた企業活動を展開していますが、その裏には多くの校友の活躍があります。サイゴン稲門会では、そんな校友のネットワークを強化し、充実した現地生活を支援することで、ベ

トナム経済の発展と日越友好に貢献していきたいと考えています。
カオ ミン ケン
CAO Minh Kien (2008年法学)



サイゴン稲門会幹事会の様子

ホーチミンの魅力

ベトナム経済の中心地であるホーチミンは、日本人にとって非常に住みやすい街です。日系企業の数が多く、和食店や日系スーパー、コンビニも豊富にあります。また、ベトナム料理も日本人の口に合い、おいしいと好評です。物価も比較的安く、治安も良いため、家族が安心して生活することができます。ダナンやフーコックなどの世界的に有名なビーチリゾートが国内に点在し、充実した休日を過ごせます。
経済的には、コロナの影響は比較的小さく、今後の世界経済をけん引する大きなポテンシャルを秘めています。また、日本のODAによって建設されたホーチミン初の地下鉄がまもなく開業予定で、交通事情の改善が期待されています。ベトナムには昼寝の文化があり、お昼になると持参したゴザを事務所の床に敷いて全員昼寝を始めます。残業も少ないため、仕事とプライベートのバランスを取りやすく、健康的で充実した生活を求める日本人にとって、最高の都市です。
川村泰裕(2008年教育)



(上)サイゴン川から高層ビル群を望む
(下)リゾートアイランドのフーコック

早稲田・慶應・上智の三校合同懇親会